



兵庫県養父市

～企業の参入により見えた一筋の光～

蘇った稲穂！

かぶしがいしゃ あ む な っ く

株式会社 Amnak

WEB サイト：http://www.amnak.co.jp/tokku/

参入法人の概要

法人形態：農地所有適格法人
代表者名：取締役会長 藤田 彰
所在地：兵庫県養父市能座 100 番地
設立年次：平成 27 年 10 月
資本金：3000 万円
親会社：山陽 Amnak（株）

営農形態：土地利用型
主要作物：酒米、うるち米、飼料用米、もち米、黒豆、ピーマン
経営面積：約 20.0ha（うち所有 0.7ha、借入 19.3ha）
主な販売先：酒造会社、山陽 Amnak（株）
純利益：3200 万円
常時雇用：4 名

●農業に参入した目的を教えてください

山陽 Amnak（株）は兵庫県三木市に所在し、外壁タイル工事を行う建築下請会社です。

私（前社長）は零細農家の出身ですが、戦争で父親を亡くし、母親が農業しながら育ててくれたので、農業への恩返しをしたいとの強い思いがありました。息子へ経営継承したのを機に長年の思いを実現するために、新たに社内に農業事業部を設置し、その責任者として農業に参入しました。

山陽 Amnak（株）では三木市内の約 40ha の農地で主に山田錦を栽培しているほか、自社敷地内にライスセンターを整備し、近隣農家からの農作業請負や米の販売も行っています。

●当該土地を選んだ理由を教えてください

三木市は酒米である山田錦の産地ですが、温暖化による高温障害により品質に影響が出始めたため、冷涼な地域で山田錦を栽培できるところがないか検討していたところ、取引先銀行の支店長から「国家戦略特区に指定された養父市が農業参入する企業を探している。冷涼な気候の中山間地なので良いお米ができるのではないかと」と勧められ、養父市の担当者に案内された能座地区の現地を見たときに、三木市から約 100 km 北にあり標高も高く、ここならきっと良い品質の山田錦を生産できるはずだとの思いで養父市に（株）Amnak を設立して参入することにしました。

●養父市ではどのような思いで農業に参入されましたか

3 本の矢にちなみ、①品質の良い山田錦を作る、②能座で 1 ターン者と呼び込む受け皿となる、③能座で作った酒米で酒を造り、国内はもちろん、海外に輸出するという三つの柱を立てました。

良い品質の山田錦が作れるようになり、地域から信頼を得てきた現在では、めざす領域が地域をどう維持していくかというステージに変わってきました。

このため、飼料用米、うるち米、もち米、黒豆、ピーマンを栽培し、自社の事務所に「NPO 法人ほまれ・やぶ」（就労支援 A 型事業所）を併設し、農作業や農産物の袋詰めといった障がい者の就労支援も行っています。

●参入にあたっての栽培技術や販路の確保で課題はありましたか

水稻は J A や普及センターが作成している栽培暦（植物の種まきや定植・収穫などの作業を年間のスケジュールにまとめたもの）のとおりに行っていればなんとかなるので、特にどこかに教を乞うたということはありませんが、黒豆やピーマンについては J A ピーマン部会に技術指導をもらっています。

販路ですが、酒米は隣接市の酒造会社に製造を委託し、オリジナルブランドの日本酒「但馬ほま

れ・能座ほまれ」として自社及び山陽 Amnak で販売しています。黒豆、ピーマンはほまれ・やぶで袋詰めしてもらったものを「道の駅ようか但馬蔵」等で販売し、冬季には、もちを但馬や三木市の道の駅をはじめ、色々なところで販売しています。

●地域との関係などで気を付けていることがあれば教えてください

企業が農業参入するときに地域で受入れられるのには時間がかかることを三木市で経験して知っています。地元の農業者がやっても大目に見られることでも企業がやると批判されることが多くあります。

また、借り入れた農地に投資をしてほ場を改善したところで地権者から返せと言われることがあります。地域と摩擦なくやっていこうと思うと意地を張らずに返すしかありません。その意味では、企業が農地を所有する意義はあります。自分で所有する農地に資金を投資することが大事です。

養父市での参入に当たっては、地域との調和を図るため、能座地区の住民 4 名にも取締役として参加してもらいました。

そのおかげで、当初 50a ぐらいで始められればと思っていましたが、能座の自治会役員が 3 ha の農地を集めてくれました（うち買い入れは 65a）。

能座地区では高齢化により休耕地は増えていましたが、草刈りなどの保全はしっかりされており、担い手に来てほしいと願う地域と参入する側のわが社の思いが一致したのではないのでしょうか。

企業が地域に入って、如何に抵抗なく一緒に仲間のような形でやっていけるかというのは難しいです。恐らく全国で皆さん苦労されているのではないのでしょうか。

●今後の経営方針について教えてください

令和 5 年 4 月、山陽 Amnak（株）農業事業部（三木市）で農業に従事していた若手社員（35 歳）をわが社の代表取締役に迎え入れました。このように企業の農業は継続性が生まれます。

水稻作の場合、従業員 1 名を雇用するための賃金を確保するには 10ha 必要といわれます。あと 25ha 拡大していきたいと考えています。

目指しているのは自立です。助成を受けずに継続していけるような体制を目指します。

令和 5 年度の利益は 320 万円ですが、来期は 500 万円の利益を出せるようにやっています。

●今後、農業参入しようと考えている企業へのメッセージをお願いします

山陽 Amnak（株）では、約 10 年かかって農業事業部だけで利益を出せるようになりました。

農業への参入の仕方はいろいろあってよいと思いますが、企業の中に農業事業部を作るというやり方が一番うまくいくのではないのでしょうか。いきなり農業をやる企業を設立するには資金もいるし人を集めるのも大変です。本業があるなかに農業部門を立ち上げるのが成功への近道ではないのでしょうか。

親会社の社員が農業部門に異動して農作業に従事するようになると明るく笑顔で作業に取り組む姿を多く見るようになります。農業は精神的安定につながるといった側面もあると思っています。



日本酒「但馬ほまれ、能座ほまれ」



能座の棚田の風景